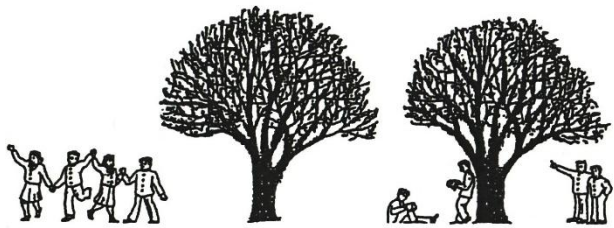


2本のケヤキ

第173号 (令和8年9月4日)



なぜ太田は暑いのか？

～国内最高気温41.8℃(R7.8.5

伊勢崎)の背景と学校の対策～

厳しい残暑が続いています。昨年、群馬県で国内最高気温41.8℃が記録された背景には、この地域特有の地理的条件があるそうです。

1. 熱が溜まる「4つの要因」

①山越えの熱風：北と西の二方向の山脈からフェーン現象による熱風が吹き降ろします。

②関東平野の袋小路：都心を通り北上した熱風が山脈にぶつかり滞留します。

③長時間の照射：平坦な地形のため、朝から夕方まで強力な太陽光を受け続けます。

④風の衝突：山からの乾燥風と南からの海風が衝突・停滞し、局地的に気温が上がります。

このように本県東部は、山風・都市熱・日差しの3つが揃い、風の停滞で熱が逃げない環境にあります。

2. 「根性論」に頼らない学校の熱中症対策

記録的な暑さから生徒の命を守るため、学校では客観的な数値に基づく対策を講じています。

①暑さ指数(WBGT)による判断：31℃以上(危険)では屋外運動や空調のない体育館での活動を原則中止し、冷房教室へ切り替えます。

②環境整備と配慮：特別教室のエアコン稼働や日陰の確保に加え、登下校時の日傘・冷却グッズの使用や定期的な水分補給を行います。

③体調管理と体制整備：朝の健康観察で変化を察知し、「無理せず体調不良を言える雰囲気」と応急処置体制を整えています。

ご家庭でも登校前の健康観察や十分な睡眠・朝食など、引き続きご協力をお願いいたします。

未来への架け橋

～高等特別支援学校における実習の意義～

9月は全学年で「実習の月」と言えます。高等特別支援学校における「校内実習」と「現場実習」は、学校から社会へと踏み出すための重要な移行支援のプロセスです。本校では、生徒の進路希望(一般就労・福祉就労)に応じた実習を展開しています。

1. 一般就労を目指す実習

「企業で働き続ける力」の獲得を目指します。

○校内実習：挨拶や報告・連絡・相談などの労働習慣を徹底し、手作業の正確性や体力といった自身の課題を可視化して改善を図ります。

○現場実習：実際の職場環境を体感し、適性や通勤・職場ニーズとのマッチングを確認します。企業側に必要な合理的配慮を伝える機会にもなります。

2. 福祉就労を希望する実習

「自分に合った環境で安心して生活・就労する基盤づくり」を目指します。

○校内実習：規則正しい生活リズムと作業に向かう体力を整え、多様な作業を通して自分の「得意・好き」を発掘します。

○現場実習：事業所(A型・B型・就労移行・生活介護等)の雰囲気や支援体制を直接確認します。あらかじめ環境に慣れておくことで、卒業後の不適応リスクを軽減します。

実習の本質的な意義は、単なる仕事体験ではなく「生徒自身が自分の強みや課題を知り、自分らしくいられる社会の居場所を見つけること」にあります。今後一人ひとりに寄り添った実習支援を進めてまいります。